



日本共産党広島県委員会

Tel 082-228-3366 Fax 082-227-8120
Mail jcph@nifty.com

住民の声届け 市政の転換を

党広島市議団は市長に、新型コロナウイルス感染防止に関して84項目の要望書を6回にわたり提出してきました。

市長は「基本的な支援は国と県がすべきで、市は補完的役割を果たす」との考えに固執し「コロナ災害」ともいふべき事態の中でも、「共助」で乗り越えようとの方針で、市独自の財源による支援策は打ち出していません。

市議団は独自に実態をつかみ、生の声を突きつけて支援策につなげたいと、急きょアンケートを実施。

質問は5項目で検査・医療体制、雇用・営業と国・自治体への要望など、全て自由筆記です。

地域支部の協力で6万4千世帯に配布。全世帯数の約1割強という不十分な規模ですが、350通程度が返送されてきました。「イベント業だが、借金が1000万円以上ありコロナで死ななくても生活苦で死ぬ」「子どもは休校、親は仕事を失った。給食もなく毎日カレーと豆腐の生活。助けてほしい」などです。この声に応える支援を実現させるため頑張ります。



住民アンケートと返信用封筒

党広島市議団奮闘記

広島市保健所長と懇談

5月26日、大平よしのぶ前衆議院議員と広島市議団は広島市保健所の三森倫所長からコロナ対応に関わる保健所や相談センターの実態、PCR検査体制の現状などについてお聞きし、要望を伺いました。「5月1日から24時間の相談体制に。それでも受話器を置けば次の電話がかかるという状況だった。PCR検査も一日80検体できる体制をとっていたがピーク時は一日150検体が来た。乳児検診などの通常業務が中断されたこともありなんとか回ったが、体制の確保は引き続き課題」と三森所長。



広島市保健所長と懇談する大平氏と市議団

県ろうあ連盟と懇談

5月29日、同連盟の大西章雄事務局長から大平よしのぶ前衆議院議員と吉瀬康平広島市議がお話を伺いました。聴覚障害者に感染の疑いが起きた際に活用する遠隔通訳サービスの充実、透明マスクの普及、手話通訳者の育成や聴覚障害者の雇用確保などについての現状と課題が明らかに。県や広島市での「手話言語条例」の制定も強く求められました。



大西事務局長の話を聞く大平氏(右)と吉瀬氏(左)

じゃけえ！
日本共産党



大平喜信Twitter
LIVE配信中



https://twitter.com/tekuteku_diary